



Junior Drive
Shiraishi Racing School

REPORT

報告書

1月14日 (土) 岡国フォーミュラトレーニング
1月15日 (日) 岡国フォーミュラトレーニング
1月26日 (木) 舞洲フォーミュラトレーニング

1 2023 JAN





15°C

Track
OKAYAMA

Driver
Yuma Sugita

★トレーニングプログラム

- 10:25～ 乗り込み準備 & ミラー調整
- 10:35～ フォーミュラ走行枠① 60分 ドライバー：Yuma Sugita
- 11:45～ ロガー & 車載映像 解析
- 13:00～ 乗り込み準備 & ミラー調整
- 13:10～ フォーミュラ走行枠② 60分 ドライバー：Yuma Sugita
- 14:15～ ロガー & 車載映像 解析
- 15:35～ 乗り込み準備 & ミラー調整
- 15:45～ フォーミュラ走行枠③ 60分 ドライバー：Yuma Sugita
- 16:50～ ロガー & 車載映像 解析
- 17:00 解散

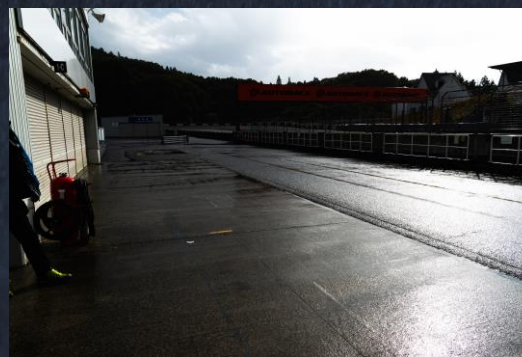
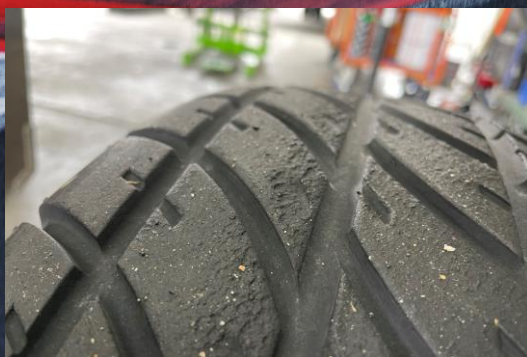


2種類のタイヤの特性を知る

2期生の杉田がトレーニングに参加しました。この日は雨予報で1日ウェットコンディションでの走行が予想されました。

この日はもう1台が加わり、合計2台を走らせることになりました。この日は雨ということでウェットタイヤを装着します。2メーカーのタイヤを準備しており、セッションごとに交互に履き替え、2種類のタイヤがどのように特性がどうかを確かめるメニューを行いました。

杉田は1セッション目、メーカーYのタイヤを装着してピットを出ていきました。もう一台の履くメーカーDのタイヤと比べて滑りやすくコントロールが非常に難しくなります。ラップタイムもメーカーDと比べて3秒も遅い結果となりました。続いて2セッション目。今度は杉田がグリップ力の高いメーカーDのタイヤに履き替えました。走行開始1周目からメーカーYのタイムを上回り、杉田本人からも「明らかにグリップが違う。」とコメントがありました。最後のセッションは1時間のセッションの半分でタイヤを交換するプランで進めました。杉田は2セッション目で装着したメーカーDのタイヤからスタート。まずまずのタイムをマークし、メーカーYのタイヤへ交換します。路面コンディションはまだ濡れてはいるものの、水の量は少しずつ減っていきました。ここで杉田は、滑りやすいはずのメーカーYでメーカーDのタイムを大きく上回るタイムを記録します。水の量でラップタイムに与える影響が大きく、また水量の相性がそれぞれのメーカーによって異なることを初めて知る機会となり、杉田にとって有意義なトレーニングとなりました。





11℃

Track
OKAYAMA

Driver
Yuma Sugita/Yuzuki Miura

★トレーニングプログラム

- 09:30～ 乗り込み準備 & ミラー調整
- 09:40～ フォーミュラ走行枠① 30分 ドライバー：Yuma Sugita
- 09:15～ ロガー & 車載映像 解析
- 10:50～ 乗り込み準備 & ミラー調整
- 11:00～ フォーミュラ走行枠② 30分 ドライバー：Yuzuki Miura
- 11:55～ ロガー & 車載映像 解析
- 12:10～ 乗り込み準備 & ミラー調整
- 12:20～ フォーミュラ走行枠③ 30分 ドライバー：Yuma Sugita
- 12:55～ ロガー & 車載映像 解析
- 13:30～ 乗り込み準備 & ミラー調整
- 13:40～ フォーミュラ走行枠④ 30分 ドライバー：Yuzuki Miura
- 14:15～ ロガー & 車載映像 解析
- 15:00 解散

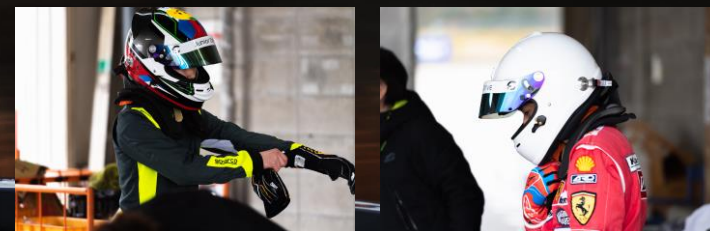


ドライとウェットのドライビングの切り替え

1期生の三浦と2期生の杉田がトレーニングに参加しました。この日は1日曇り空。時おり雨の降る読めない天候の中行われました。

1セッション目は杉田がドライブ。路面はまだ完全に乾ききっておらず、ウェットタイヤでコースインしました。タイヤはグリップ力の少ないメーカーYを装着していましたが、前日のタイムを早くも更新して好タイムで周回を重ねました。しかし、路面が乾いてくるにつれて、今度はタイムが落ちていきました。ピットでタイヤを確認したところ、タイヤがオーバーヒートしており、グリップ力が低下したことが原因でした。

2本目は三浦が走行します。1か月ぶりの走行ということでリスクを冒さず、まずはウェットタイヤで肩慣らしを行いました。10分を過ぎたところで、ドライタイヤへ交換をしました。徐々にペースを高めていき、2本目に向けて走りのデータを収集できました。3本目は杉田。路面は完全ドライコンディションとなり、スリックタイヤでコースインしました。ラップタイムもいつものドライコンディションと同じくらいに戻ってきた後半。ここで雨が降ってきてしまい、安全のためにピットへ戻りこれで終了となりました。最後の枠は三浦がドライブ。路面はドライでスリックタイヤでセッションスタート。タイヤが温まりこれからというところで雨が降り始め、ピットに入りレインタイヤへと交換しました。天気に翻弄されたこの日のトレーニングでした。





9℃

Track
MAISHIMA

Driver
Kamui Hashiramoto/Haein Hwang/Tomo Onohara

★トレーニングプログラム

- 9：45～ 集合（広場現地にて）
- 10：00～ 脱出訓練（5秒以内にマシンから降りる練習）
- 10：15～ ドグミッション慣熟走行① 10分×3名 ロングストレート 3速ギヤまで
- 11：00～ ドグミッション慣熟走行② 10分×3名 ロングストレート 4速ギヤまで
- 12：00～ 昼休憩
- 13：00～ Aコース練習走行① 10分×3名
- 13：45～ Aコース練習走行② 10分×3名 ※セット変更 スタビライザー
- 14：30～ Aコース練習走行③ 10分×3名
- 15：15～ ロガーチェック
- 15：30～ Aコースタイム計測走行 5分×3名
- 16：00～ ロガーチェック
- 16：15～ コース清掃＆車両ワックスかけ
- 17：00 解散



初めてのセッティング変更

3期生たちのフォーミュラトレーニングが行われました。ドライバーは柱本翔夢伊（12）、ファン・ヘイン（10）、小野原智（10）の3名が参加しました。

この日は気温/路面温度ともに低く、スリックタイヤでは作動温度まで達しないため、レインタイヤを装着してのトレーニングとなりました。まずは恒例の脱出訓練からスタート。まだまだ3人とも成功率が低く、1～2期生と比べると3期生たちは脱出に時間がかかっているため、次回までに短縮できるようにしたいところです。午前中は基礎練習を煮詰めるため、ストレート区間のみを使用したシフト操作を重点的に行いました。背や腕が伸び始め、以前よりもシフトの位置が手前に感じるドライバーもいましたが、与えられたシフトの位置に対応できるようになりました。午後からはサーキットトレーニングに移ります。右へ左へ曲がりくねったレイアウトのため体力を必要としますが、前回までと比べると3名ともに体力がついてきており、フィジカル面も向上しているように見えます。そして3期生にとって初めてのマシンセット変更も実施しました。挙動の変化に気づいた子もいれば、そうでない子もありコメントもさまざまでした。今回驚いたのは3人のタイムの差です。以前までは2秒もあった差が今回は非常に接近しており、1秒ほどの差に納まりました。最後は5分のタイムアタックでこの日の成果を確認します。事前にロガーで解析して、それを修正してタイムアップにつなげた柱本に対し、ファンと小野原は修正することができなかったため、次回に修正してくることを期待したいです。



DRIVERS PERFORMANCE

Gin.1-2



Junior Drive
Shirasahi Racing School



舞洲スポーツアイランド



GARAGE38
Luce ed ombra



Yuma - SUGITA (14)

今月はウェットコンディションの経験値を多く積んだ杉田。滑りやすい路面でのマシンコントロールが向上しました。また2メーカーのタイヤの特性の違いを体験できたのも非常に大きな収穫になったはずです。これらの経験をこれからのキャリアに活かしてほしいです。



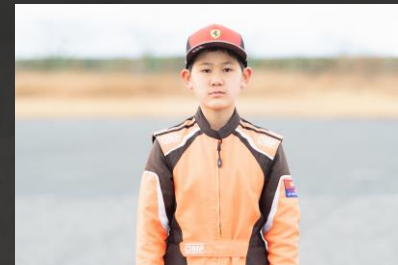
Yuzuki - MIURA (15)

限りある時間の中で、成果を残したい三浦。今回はある問題に早く気づいていれば、結果は大きく違っていたはずです。ほんのわずかな気づきで大きくタイムアップできる技量を持っているため、今回のトレーニングで学んだことを使って次回以降に繋げてもらいたいです。



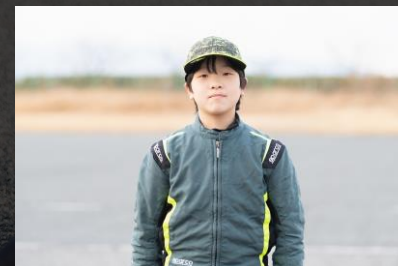
Kamui - HASHIRAMOTO (12) Best 41.596

この3名の中で追われる立場となりつつある柱本。そんな中でも満足せず自ら改善しようという気持ちが彼からは伝わります。今回もロガー解析した後の走行で、唯一講師からのアドバイス通り実現できたドライバーでした。まだまだ速くなるための課題は多くあるので、一つ一つ改善して高めていってほしいです。



Haein - HWANG (10) Best 42.591

今回、明白な課題を見つけられたファン。1日を通して大きく波があり、良い時は飛びぬけて速さを感じますが、そうでないときの落ち込みが激しいです。失敗を恐れずトライする姿勢は誰よりもあり評価できます。その失敗から学ぶことがこれからの彼には必要だと感じました。



Tomo - ONOHARA (10) Best 42.979

今回も成長を見せた小野原。序盤はシフト操作に苦戦している様子でしたが、徐々に感覚を取り戻し後半は成功率を高めていきました。相手の走りをもっと研究し学ぶ姿勢を身に着ければ、前の2人に追いつけるポテンシャルはあると思います。



【トレーニングを終えて】

新たな1年がスタートしました。

1期生2期生たちは岡山中で細かな積み重ねを繰り返し、シビアな世界でトレーニングを続けています。

3期生たちは舞洲で基礎テクニックを学びながら元気に成長中です。

この1年で彼らがどれだけの成長を見せてくれるのか非常に楽しみです。

Junior Drive講師 白石勇樹





Junior Drive
Shiraishi Racing School



Junior Drive
Shiraishi Racing School



Rental Kart Land ISK

舞洲スポーツアイランド



PRO e-RACING DRIVERS

GARAGE38
Luce ed ombra



Artisan by La Rapina Garage Club

